



TOPICS 6 環境リスクマネジメントの強化

独自のシステムを構築し 環境関連情報を一元管理

化学物質管理・商品含有物質管理の強化

化学物質管理の取り組み

NECフィールドディングでは、環境対応を経営課題のひとつに位置づけ事業を遂行しており、その一環として化学物質管理について基本方針を設定し積極的に取り組むとともに、現在あるいは将来にわたり制定される国際的な化学物質規制に迅速に対応しています。

■ 商品・保守機材開発

商品・保守機材の開発時に有害化学物質含有について評価し、含有の禁止・制限を行っています。

■ 商品販売

販売する商品は、取引先から有害化学物質の含有情報、MSDS*などを事前に入手し、お客さまからの情報請求に迅速に対応できるようにしています。

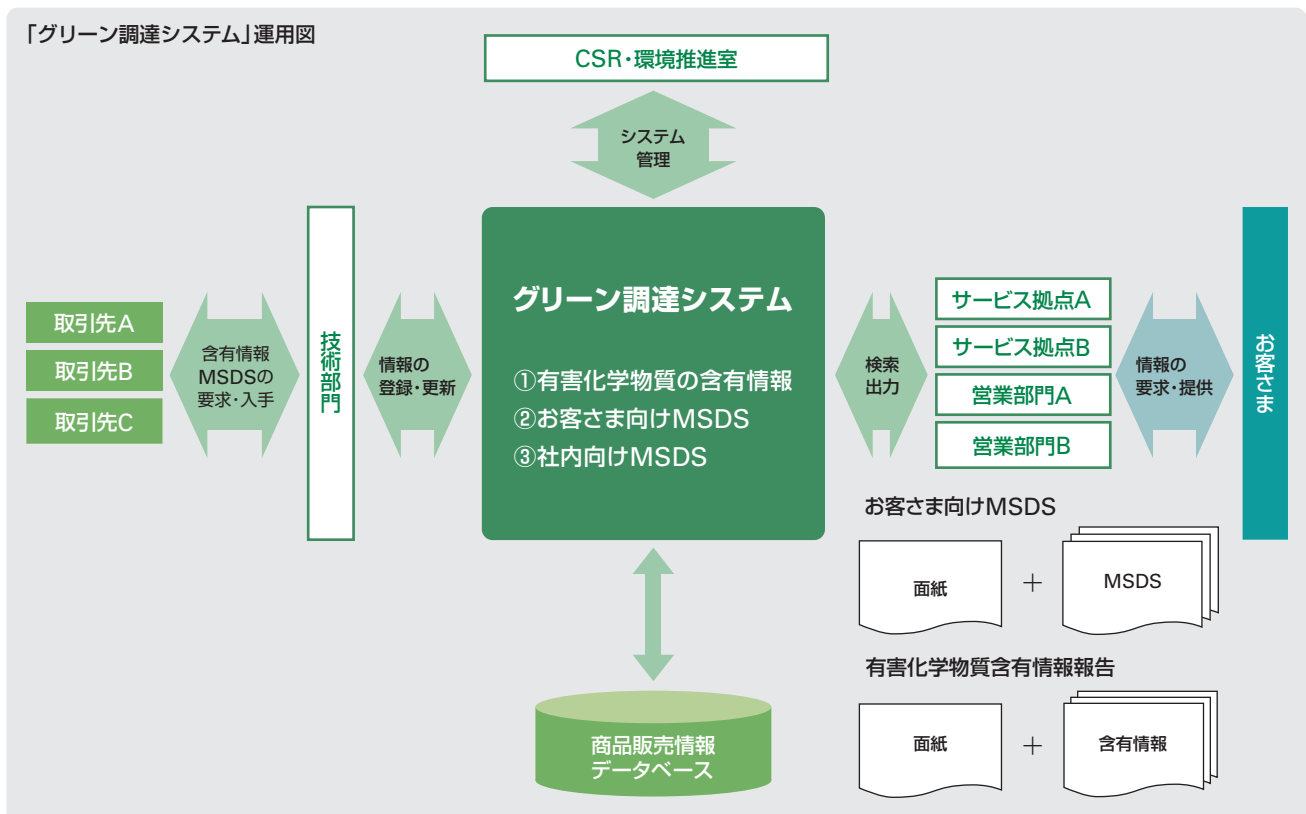
■ 保守サービス業務

保守用機材に使用する溶剤等は、取引先からMSDSを事前に入手し、現場で活用できるよう共通様式でデータ提供をしています。

グリーン調達(国内外の有害化学物質規制への対応)

欧州委員会が制定したRoHS指令をはじめとして、世界的に有害化学物質に対する規制強化の動きが強まっています。国内市場においてもお客さまからのグリーン調達要請で有害化学物質を含んではならないことが条件になる場合があります。

NECフィールドディングではこれら内外の有害化学物質の規制も考慮した自社のグリーン調達基準を制定し、事業遂行のために必要な部材・部品など全ての有形の製品について、グリーン調達基準に適合していることを条件として調達しています。



* MSDS…化学物質や化学物質が含まれる原材料・製品などを安全に取り扱うために必要な情報を記載した化学物質安全性データシート。

「グリーン調達システム」の構築

近年、当社が販売した商品について、RoHS指令の規制物質をはじめとする含有有害化学物質の問い合わせが増えてきました。従来、当社ではお客さまから商品含有有害化学物質情報を求められた場合、営業・サービス拠点が技術部門に問い合わせ、技術部門が取引先から情報を入手していました。そのため、お客さまへの回答に時間がかかっていました。

そこでNECフィールドディングでは、以前から活用していた商品販売システムをベースに「グリーン調達システム」を構築し、2008年4月から運用を開始しました。営業・サービス拠点がこのシステムに直接アクセスすることによって、お客さまの有害化学物質に対する情報請求に即座に対応できるようになりました。

お客さまの問い合わせにリアルタイムに対応 「グリーン調達システム」を構築し、商品の有害化学物質情報を一元管理

技術本部 共通技術部 主任 上野 昌孝

従来、当社が販売している商品の有害化学物質についてお客さまから情報提供などのご依頼があった場合、営業拠点から、環境推進室、技術本部の製品開発部門、さらには取引先や製造先まで、5、6段階の問い合わせステップが必要でした。そのため、お客さまに回答するまで1ヶ月以上かかることもありました。

そこで、お客さまへの迅速な情報提供を目的に誕生したのが「グリーン調達システム」なのです。現在は、直接お客さまとの接点である営業拠点からリアルタイムに回答することができます。

私は主に「グリーン調達システム」のデータベースの構成を担当しました。調達部品等販売する商品に含まれる有害化学物質の含有データなどの登録方法について判断に迷うところもありましたが、環境推進室を中心に経営システム部、商品開発部門等とともにシステム構築できたことに感謝を申し上げます。今後は機能を追加し、さらに有効に活用できるシステムにしていきたいと思います。



産業廃棄物・リサイクルガバナンスの強化

廃棄物管理システムで一元管理

NECフィールドディングでは、2008年度から廃棄物管理システムを導入し、全国の営業拠点から排出される産業廃棄物についての産業廃棄物マニフェスト伝票と産業廃棄物委託処理契約管理に関して、全国一元管理を開始しました。

従来、産業廃棄物マニフェスト伝票の授受管理や産業廃棄物委託契約書の許可証有効期限管理などは、営業拠点ごとに個別方法で遵法管理していました。本システムの導入により、本社統一的な管理が図られ、有効期限切れ予告アラーム機能や、産業廃棄物に関する契約管理の一元化、

翌年度のマニフェスト行政報告などに活用され、大幅な産業廃棄物・リサイクルガバナンス強化につながりました。

廃棄物管理システム

システム機能	遵法管理機能	リスク対策効果
マニフェスト伝票管理	授受日程管理 予告アラーム マニフェスト報告	法定期限遵守 期限前アクション 報告漏れの回避
産業廃棄物に関する契約管理の一元化	契約書登録 許可証期限管理 契約書検索機能	未契約の防止 許可証期限切れ前処理 新規契約の重複防止



環境マネジメント

2008年度活動テーマ

NECフィールディングでは、環境リスクマネジメント体制を強化するために、遵法管理、内部監査、化学物質管理、廃棄物管理、およびパートナーの環境経営体制構築支援について取り組みました。

2008年度の活動実績

1. 環境マネジメントシステム運用体制により、全社的な環境リスクマネジメント活動を推進しました。
2. 内部監査、定期審査を実施し、環境マネジメントシステムが正しく機能していることを確認しました。
3. 「フィールディングecoネットサービス」を提供し、パートナー・協力会社の環境経営を推進しました。
4. 「グリーン調達システム」、「廃棄物管理システム」を導入し、環境リスクマネジメント体制を強化しました。

今後の課題

1. 子会社、パートナーを含むNECフィールディンググループ環境経営のさらなる強化
2. 遵法管理、内部環境監査、化学物質管理、廃棄物管理手法の適正化

環境経営への取り組み

NECフィールディングは企業としての社会的責任を自覚し、みずからの事業活動の環境負荷低減を図り、さらに製品・サービスの提供によって社会全体の環境負荷低減に貢献する「環境経営」を通して、持続可能な社会の実現を目指します。

環境理念

NECフィールディングは企業活動の全域で環境にやさしい社会の実現に貢献します。

行動指針

1. コンピュータシステム・通信システム・ネットワークシステムの各種サポートサービスの提供と、各種商品の販売において、地球温暖化防止活動、及び廃棄物の削減、再利用、再資源化の推進により、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。
2. お客様の環境負荷低減に寄与する「環境に配慮した製品・サービスの提供」につとめ、あわせて社内で使用する事務用設備のグリーン購入を推進します。
3. 国・地方自治体などの環境規制、及びお客さまとの約束事項を遵守することはもとより、自主管理基準を設定し、継続的に汚染の予防につとめます。
4. 「環境経営活動プログラム」を明らかにし、全部門・全従業員がそれぞれの役割に応じ、創意をもって環境経営を推進します。
5. 内部環境監査で活動状況を確認し、改善と是正及び未然防止を行い、環境マネジメントシステムの維持向上につとめます。
6. 従業員への環境教育を計画的に実施し、環境意識の向上につとめるとともに、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
7. 環境方針をはじめとした、事業活動における環境への取り組みを積極的に公開し、広く社会に貢献します。

環境マネジメントシステムの運用

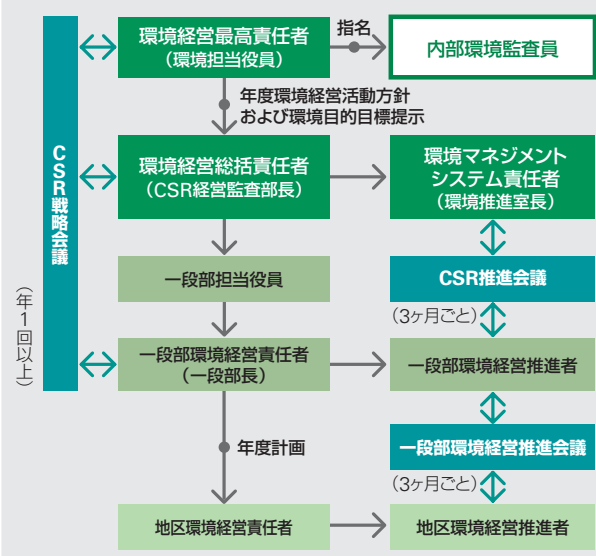
NECフィールディングでは、環境経営最高責任者から、一段部環境経営責任者に対して環境経営活動方針および環境目的目標を提示することで、所管地区の計画策定と活動指示を行います。

各地区では年度計画に沿って活動が実施され、地区・一段部・全社ごとに活動の進捗確認を行います。

合わせて、CSR戦略会議では中期計画、社内ルール of 審議等。さらに各推進会議では水平展開・活動のフォローアップなどの環境コミュニケーション活動を実施します。

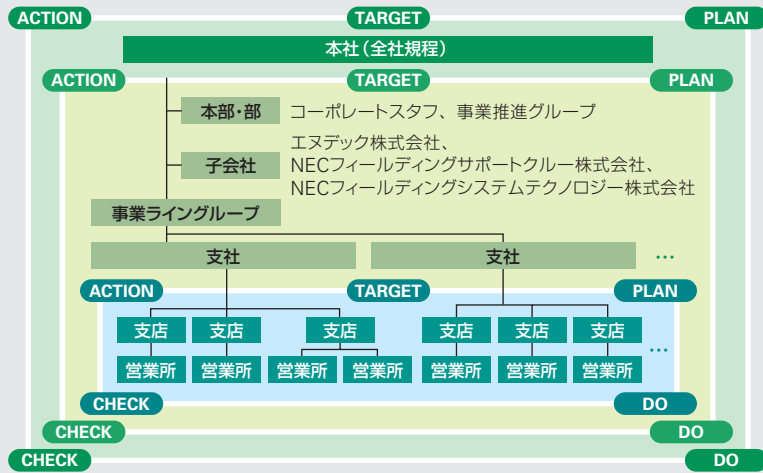
また、環境経営最高責任者によって任命された監査員が、全地区の活動状況に対する内部環境監査を毎年実施し、継続的改善につなげています。

環境マネジメントシステム運用体制



環境マネジメントシステム組織

全国支店規模以上での3階層によるT・PDCAシステムを構築し運用（(1) 本社 (2) 支社／本部／部 (3) 支店）



ISO14001認証取得サイト 2009年5月 126地区412拠点

環境経営活動開始によせて VOICE

NECフィールドディングシステムテクノロジー(株)は2007年6月に設立され、フィールドディンググループの一員として、より高品質な運用サポートサービスをご提供しています。



NECフィールドディングシステムテクノロジー株式会社 業務本部 主任
伊藤 正幸

環境への取り組みは2009年度から始まったばかりです。環境管理活動として7項目を設定し、環境負荷低減効果を高めていくとともに、従業員の家庭・地域での取り組みも促進していきます。

環境監査

環境ISO14001定期審査実施(2009年5月)

NECフィールドディングの環境マネジメントシステムは、全社・支社・支店を三階層で構築し運用を行っています。2009年度からNECフィールドディングシステムテクノロジー株式会社を新たにISO認証範囲に取り込んだ体制で、審査機関による審査を行っていただきました。審査結果を踏まえて運用等の徹底と改善を図り、是正処置・予防処置を実施し継続的改善につなげるよう努めています。

2008年度 環境ISO14001定期審査結果

審査・登録範囲	2007年度	2008年度
登録拠点数	37一段部 127地区 計 414拠点 (部、営業所、地区センター)	39一段部 126地区 計 412拠点 (部、営業所、地区センター)
登録範囲の従業員数	8,485名	8,747名
審査結果	2007年度	2008年度
改善指摘事項(カテゴリ-A)	0項目	0項目
改善指摘事項(カテゴリ-B)	0項目	0項目
改善の機会	17件	9件
ストロングポイント	3件	1件

内部環境監査実施(2008年11月～12月)

NECフィールドディングの内部環境監査は、1993年度に開始し、継続して実施しています。環境マネジメントシステムは他社審査員により、本部・支社レベルは他本部・支社の審査員によるクロス審査を継続し、全国161拠点の監査を実施しました。なお、「不適合事項」は、規程・運用の改善を図り、是正処置・予防処置を実施しました。

2008年度 内部環境監査結果

実施地区	2007年度	2008年度
登録拠点数	37一段部 127地区 環境推進室 計 165拠点	38一段部 123地区 環境推進室 計 161拠点
現地確認数	面談37地区 電子調査127	面談38地区 電子調査105
地区監査員数	社内10名 社外7名	社内10名 社外9名
監査結果	2007年度	2008年度
不適合(カテゴリ-1)	1件	0件
不適合(カテゴリ-2)	6件	7件

環境リスクマネジメント*

NECフィールドディングでは、大気汚染や水質汚濁、土壌汚染などを未然に防止するため、法の遵守はもとより、厳しい自主管理基準の設定や環境監査のほか、いろいろな事故を想定した環境リスク対策を行っています。

事故・苦情への対応実績

現在までに、環境にかかわる罰則・料料および苦情は受けていません。

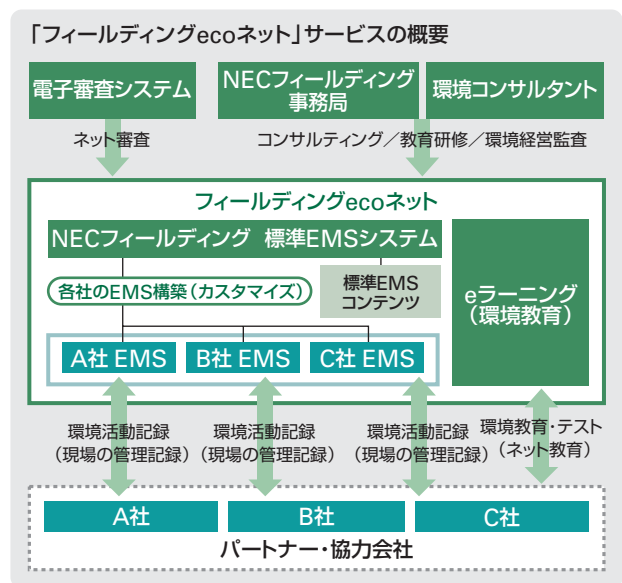
*リスクマネジメント(Risk Management)…19ページ参照



パートナー・協力会社のISO14001認証取得を支援

NECフィールドディングでは、2007年度から取引先企業の環境マネジメントシステム(EMS)の構築・運用を支援する「フィールドディングecoネット」サービスを提供しています。取引先企業の業種に合わせたEMSコンテンツを提供し、さらに専門スタッフによる、システム構築から運用までのさまざまな業務サポートを行うことで、高品質なEMSを短期間に構築でき、ISO14001認証取得期間の大幅な短縮を可能にしました。また本サービスでは、認証取得審査に「電子審査システム*」を採用し、審査にかかる工数やコストを軽減しています。2008年度までに取引先企業12社が「フィールドディングecoネット」に加盟し、このうち10社が認証を取得しました。

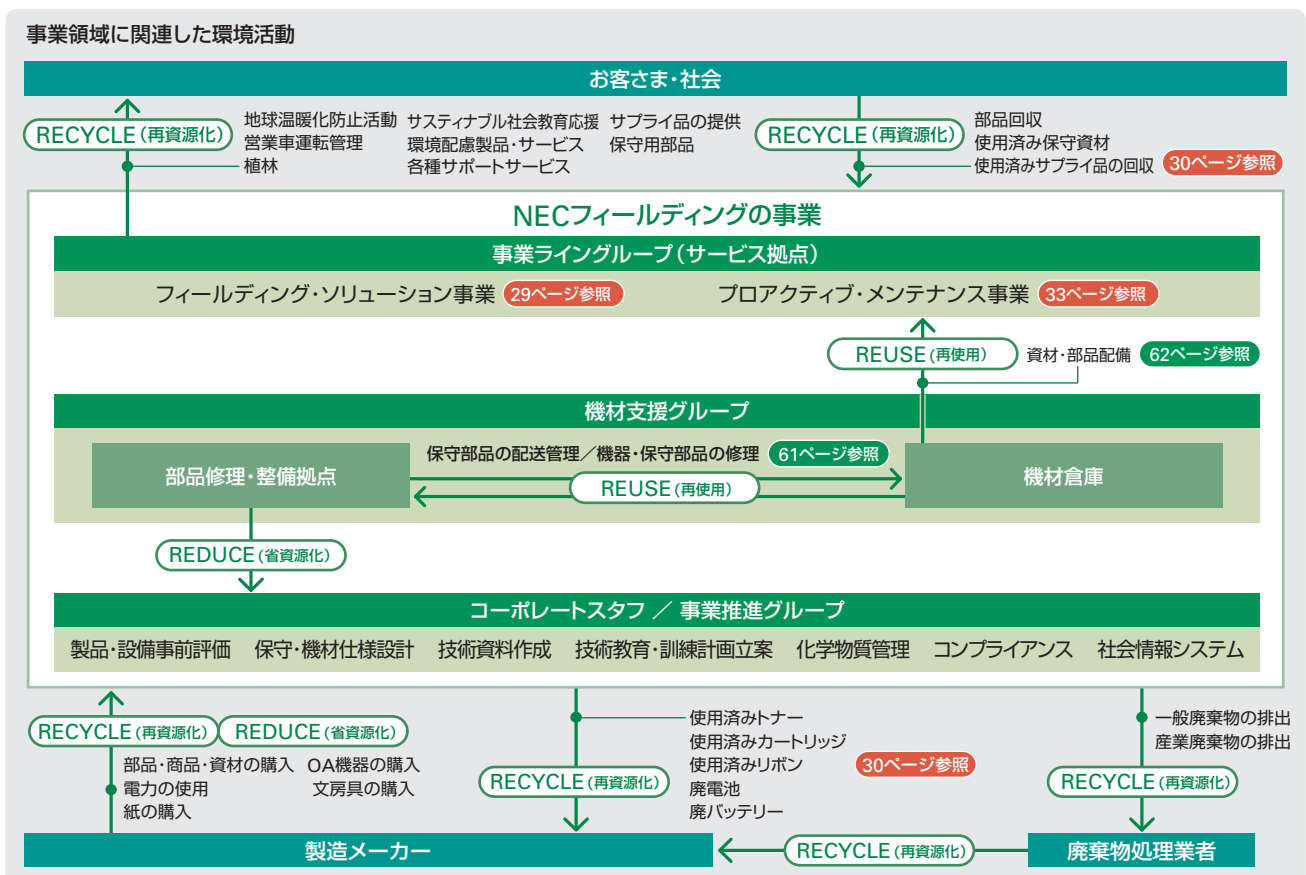
*電子審査システム…財団法人日本品質保証機構(JQA)とNECが共同開発したITネットワーク活用型の審査手法です。



フィールドディング事業と環境のつながり

NECフィールドディングでは、事業特性、社会への影響度を考慮して抽出した「地球温暖化防止」、「廃棄物削減」、「グリーン購入」、「環境配慮製品・サービス」などの配慮すべき環境側面について、NECグループの環境経営基

本コンセプトに基づく「事業活動に直接関連する領域」と「間接的な領域(NECフィールドディングではプロアクティブな領域と呼ぶ)」から取り組んでいます。

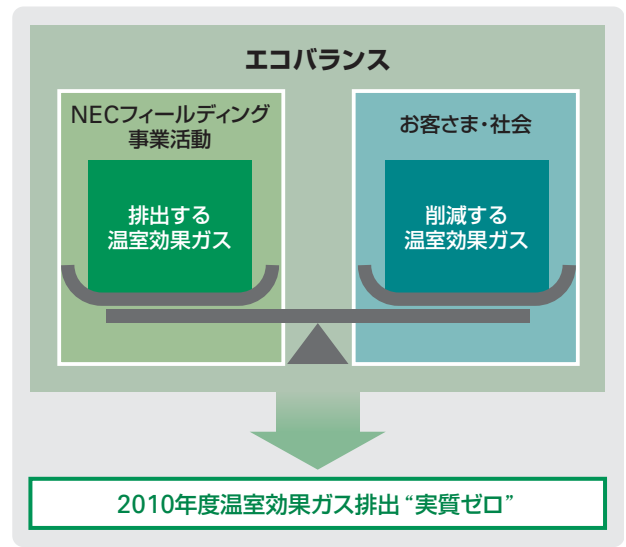


環境経営目標2010

NECフィールドディングでは、環境経営を長期的に方向づけて具体的な事業活動と連動させ、持続可能な事業経営への変革を促進するために、2010年を見据えた長期目標を推進しています。

環境経営目標2010

- ・ 環境負荷の小さな事業構造へのシフト
- ・ 事業活動における温室効果ガスの総排出量を基準年レベルへ削減
- ・ 再生可能な資源・エネルギーの積極的な導入
- ・ 全従業員が高環境意識層(エコ・エクセレンス)へ
- ・ エコITソリューションの提供による、お客さま・社会のCO₂排出量を削減



中期環境経営目標

NECフィールドディングでは、環境経営目標2010をもとに、具体的な目標として5つの活動テーマからなる環境中期計画を設定し、取り組んでいます。各目標値を設定して目標の達成度を定期的に自己評価し、その結果を活動

の展開に組み込んでいます。2009年4月に、NECインフロンティアシステムサービス株式会社を吸収合併したこともあり、各目標値の見直しを行っています。

環境中期計画

活動テーマ		2008年度			2009年度	中期目標	
		目標	実績	評価	目標	目標	達成年度
環境経営の強化 (55ページ参照)	法令違反ゼロの維持、環境事故ゼロ★ (56ページ参照)	0件	0件	○	0件	0件	—
	フィールドディングecoネット加盟企業拡大★ (57ページ参照)	14社以上	12社	△	16社以上	30社以上	2011年度
環境配慮型製品・サービス	顧客社会CO ₂ 削減★	9,000t	8,934t	△	12,000t	15,000t	2010年度
	エコアピールプロポーザル件数★	5件/1人	9件/1人	○	8件/1人	9件/1人	2010年度
	CSRサプライ売上※拡大★	5,050百万円	4,774百万円	△	—10%	—10% (前年対比)	2009年度
地球温暖化防止 (60ページ参照)	事業活動による温室効果ガス排出量の削減★	13,977t	12,126t	○	12,901t	—36% (基準年比)	2010年度
資源循環	廃棄物排出量 (一般廃棄物+産業廃棄物)の削減★	—15% (基準年2005年)	—13%	△	—20%	—25% (基準年2005年)	2010年度
	産業廃棄物ゼロエミッション	99%	99%	○	99%	99%	2006年度以降
環境意識啓発	高環境意識層 (エコ・エクセレンス層)の拡大 (63ページ参照)	75%	75%	○	80%	100%	2010年度

★：新規追加項目または目標変更項目 アンダーライン：追加点、変更点 評価基準：○ 達成 △ 達成率80%以上 × 達成率80%未満 — 該当なし

※CSRサプライ売上：CSR関連商品(環境配慮型製品、リスク軽減製品等)売上+広域3Rサービス売上。



環境パフォーマンス

2008年度活動テーマ

地球温暖化防止や省資源・省エネルギー、廃棄物削減やリサイクル率向上など、環境に与える負荷を極力低減し、さまざまな環境問題の防止・解決に貢献しました。

2008年度の活動実績

1. 温室効果ガスの削減(目標達成率115%)
2. 代替フロンガス(HFC-152a)全廃
3. 積極的な環境配慮型サービスの提案(エコアピールプロポーザル)

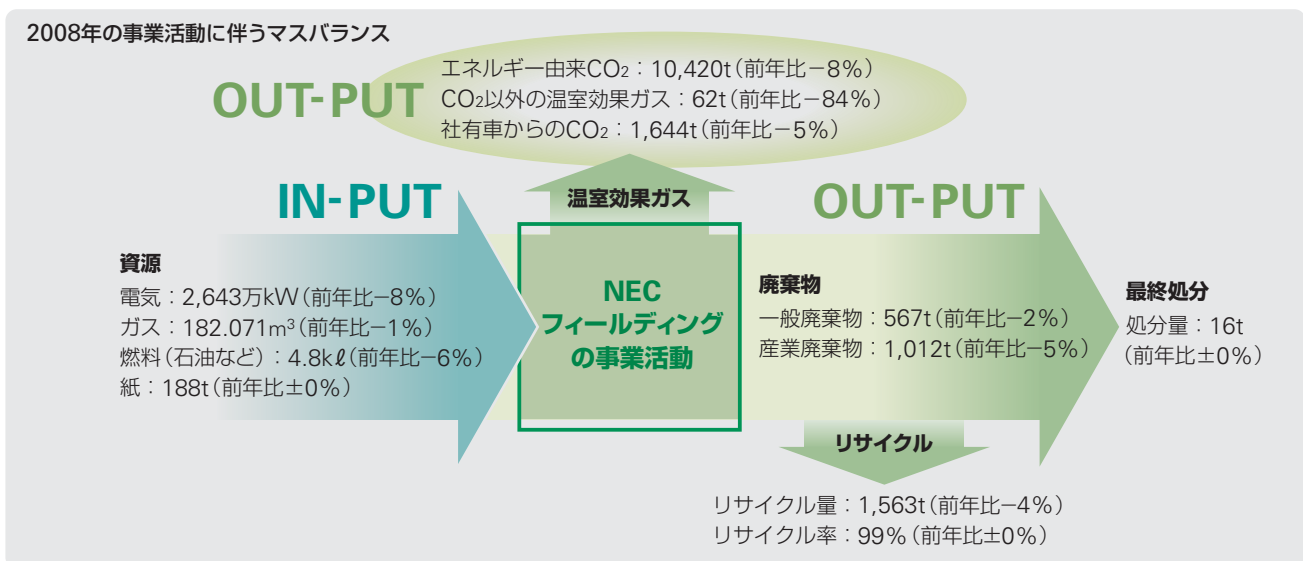
今後の課題

CO₂削減への取り組みとして、次期超長期目標を設定し、地球温暖化問題に取り組んでいきます。

企業活動のマスバランス

NECフィールドディングでは、直接的事業活動において、環境負荷との関連性をより明確に示すためにマスバランス(物質収支)を把握し、環境負荷削減に向けた施策の展

開に活用しています。2008年度は多くの環境負荷項目で2007年度より絶対量が削減できました。



環境会計

2008年度環境会計と推移

分類	細目	費用(単位：百万円)		
		2006年度	2007年度	2008年度
事業内エリア内コスト	資源循環コスト/廃棄物・リサイクル処理委託費	137	134	109
上・下流コスト	保守部品の回収・3R(部品保守費※)	6,623	5,844	5,672
管理活動コスト	環境活動にかかわる人件費(労務費、人件副費)	46	49	57
	ISO維持・環境監査(旅費交通費、審査・登録料等)	1	1	1
	人材育成(監査員・審査員育成)	1	2	1
	環境情報システム開発、運用	33	39	38
	その他運用費(再商品化委託料、環境関連年会費等)	1	1	1
研究・開発コスト	IT化による省資源・省エネルギー関連	312	914	786
社会活動コスト	寄付金(政治献金を除く)	4	4	1
合計		7,158	6,988	6,666

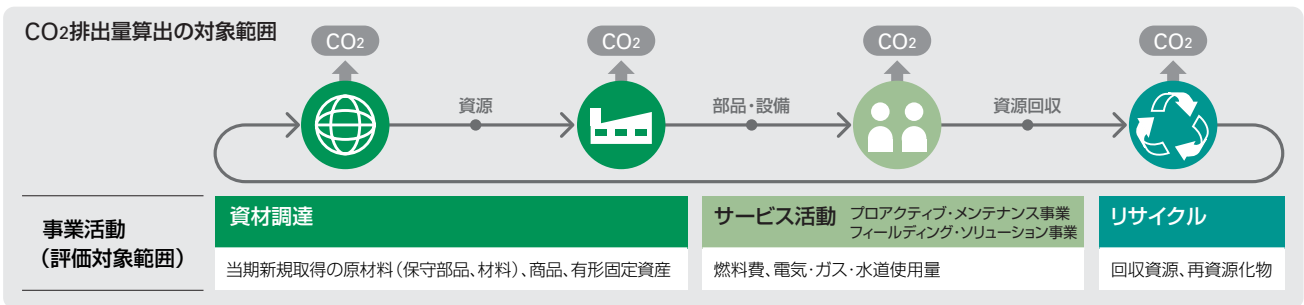
※修理することにより繰り返し再利用が可能な保守部品の修理コスト。修理せずに新品を購入した場合との差額は、2007年度は7,030(百万円)、2008年度は6,508(百万円)

地球温暖化防止

事業活動におけるCO₂排出量

NECフィールドディングの事業活動全体から排出されるCO₂を、NEC基礎・環境研究所の協力を得て、2001年度より経理データを用いて算出しています。社外からの

保守部品・材料などの「資源調達段階」に始まり、「サービス活動」および「リサイクル活動」まで、社外における間接的な環境負荷を考慮して事業活動を展開しています。

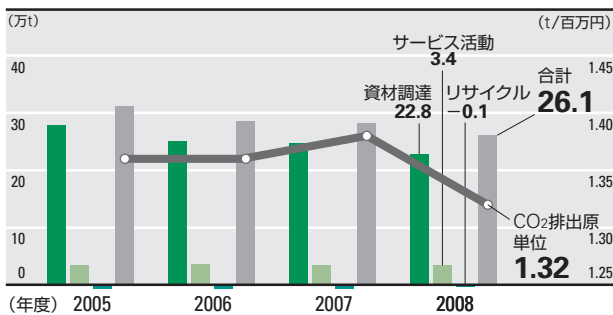


2008年度のCO₂総排出量は約26.1万トンと、2007年度比較で約7%、2.1万トン削減しました。これは、売上高の減少の影響もありますが、資源調達段階およびサー

ビス活動におけるCO₂排出量を抑制したことによるものです。CO₂排出原単位としては4%以上の低減を図ることができました。

CO₂排出量

※NEC基礎・環境研究所が開発した「事業全体の環境負荷評価手法」により算出・評価。

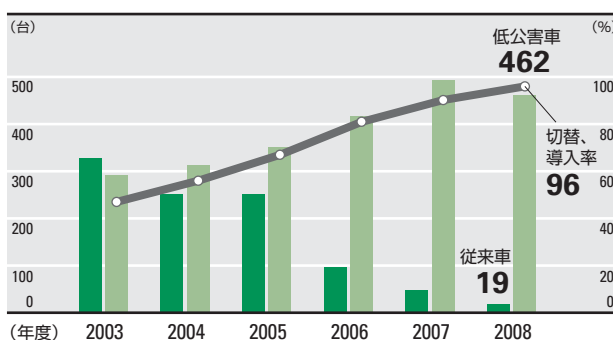


資源調達	各年度に購入した保守部品等の資材、設備など他社で製造する段階に排出されるCO ₂ 量。各購入品の購入額と産業関連表に基づきNEC基礎・環境研究所の構築したLCAデータから算出。
サービス活動	NECフィールドディング内での電気、ガス等のエネルギーの使用により排出されるCO ₂ 量。各エネルギー使用量とLCAデータから算出。
リサイクル	リサイクルによるCO ₂ 排出量から、リサイクルによって得られる材料を原料から製造する場合のCO ₂ 排出量を引いた値。資源回収実績から算出。

エコカーへの切替促進

NECフィールドディングでは、2003年度から社有車の多くを占めるリースカーを中心にエコカーへの切替を促進し、導入率は96%まで到達しました。今後も継続して取り組み、2010年度末までに切替導入率100%を目指しています。

エコカー導入数とエコカー切替導入率の推移



代替フロン(HFC-152a)の全廃

NECフィールドディングでは、保守作業の清掃ツールとして、地球温暖化係数*が140と高い代替フロン(HFC-152a)のダストブローを使用していたため、この使用・排出削減に取り組んできました。

このたび、地球温暖化係数が1である液化炭酸ガスを使用した「エコブロー」等を代替品として開発し、2008年10月より全面的に切り替えたことで、保守作業における温室効果ガス排出量は大幅に削減できました。

*地球温暖化係数…各物質の地球温暖化をもたらす効果の程度を、CO₂を基準(=1)としてその比であらわした数値。

保守作業での温室効果ガス排出推移

	排出量 (単位: CO ₂ -t)			
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 (見込)
CO ₂	0	1	1	2
代替フロン (HFC-152a)	610	377	61	0



エコブロー



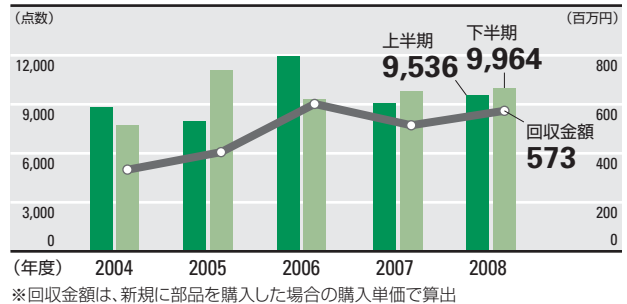
再資源化・リサイクル

広域認定制度による年度別回収実績と回収金額

「広域認定産業廃棄物処理者」認定を受けているNECの委託を受け、NECフィールドイングでは、法人向け使用済みIT機器の回収受付、および部品取り外し・点検・修理を行う部品リユースシステムを構築してIT機器構成部品のリサイクルを行っています。

2008年度の回収実績・金額は、環境活動目標として活動を推進した結果、2007年度に比べ増加傾向となりました。

年度別部品回収実績・回収金額



生産革新活動による環境負荷低減

NECフィールドイングでは2006年10月より生産革新活動をスタートしました。当社で唯一生産活動形態であるリペア本部とロジスティクス本部がこの活動に取り組み、環境負荷を大幅に低減することができました。

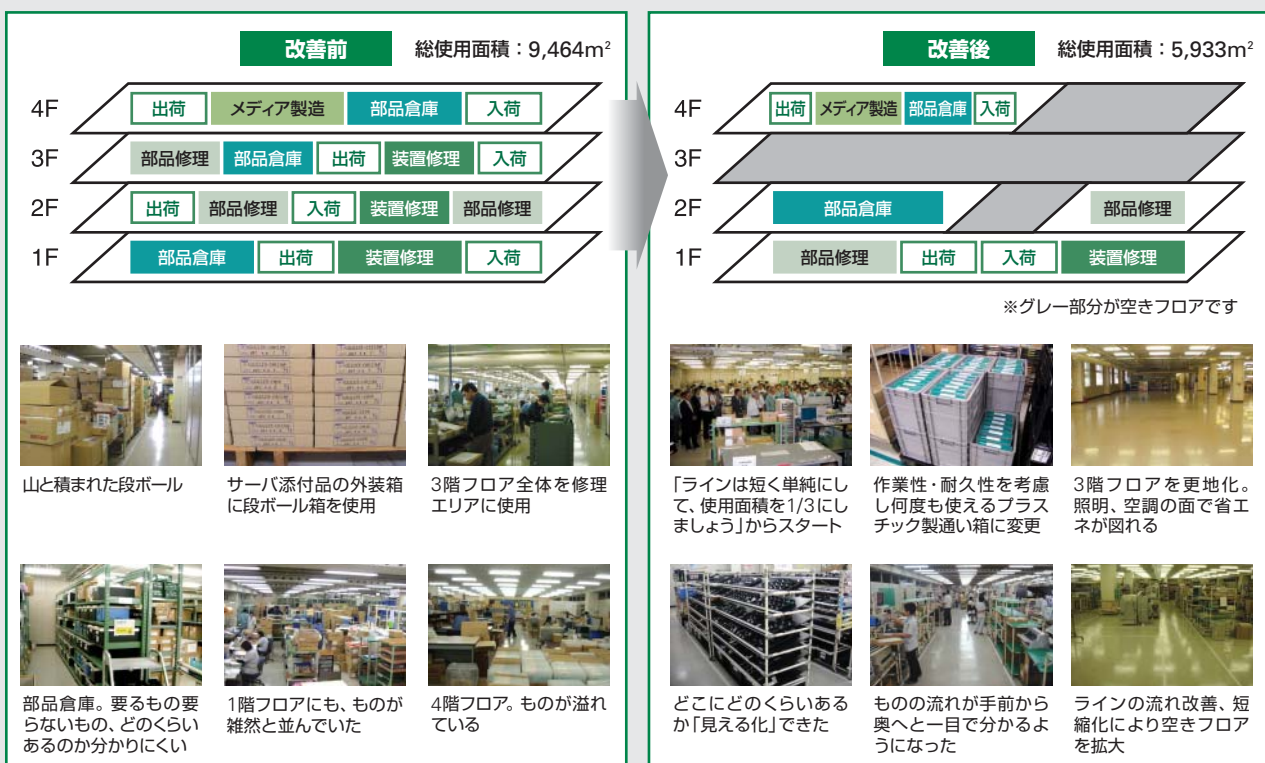
リペア本部は、お客さまのIT機器などに不具合があった場合、使用していた不具合部品や製品をロジスティクス本部から受け付け、再度使用できるよう修理を行い、良品として返却することを主業務としています。修理工程は大別すると、受付・診断・修理・検査・出荷から構成されています。

第一ステップとして各作業場における2S3定(整理・整頓、定位置・定品・定量)の徹底実施、第二ステップとして各修理工程について根本から見直し・改善を実施しました。

その結果、フロア総使用面積削減による電力使用量削減や、梱包方法変更による廃段ボール削減等、環境負荷を大幅に削減することができました。

今後もさらに改善を進め、2009年度はロジスティクス本部の改善を包含し、リペア本部の川崎への統合移転を計画しており、物流も含めた環境負荷低減の促進を図っていきます。

生産革新活動前後の状況比較(リペア本部大和テクノセンター)



モーダルシフトの実践とメンテナンスパーツ輸送費の削減

ITシステムの保守には、多種類のメンテナンスパーツを使用します。スペアパーツは、使われる場所にあらかじめ全てを準備しておき保守作業に充当するのがベストですが、現実には準備する種類と数量は限定せざるを得ません。とりわけシステムのトラブル発生時には、必要な場所へ必要なパーツをできるだけ速く届けて復旧を図らねばなりません。その際、速さを優先させた輸送方法を使えば、費用が増大するとともにエネルギーを多く消費します。そこでNECフィールドイングでは、以下のような方法を組み合わせ、費用とCO₂排出の削減を推進しています。

パーツ輸送の大動脈と静脈は大型トラックによる定期混載便+船舶輸送

所要を見込んだパーツを全国のパーツセンターへ配備して、消費した数量を翌日の朝には川崎の補給センターから補充し、スペアパーツの在庫を確保しています。パーツ補給の大動脈と使用済みパーツ回収の静脈ラインは、NECグループの生産工場と物流拠点間を結ぶネットワーク「トラック混載便」を使い、グループ各社の荷物と協同運送し効率化を図っています。また、スペアパーツの補給センターへの回収には本格的なモーダルシフトを取り入れ、輸送費とCO₂排出削減を両立させています。沖縄からの戻りは船舶輸送と静脈ラインの「トラック混載便」をつなぐことにより、環境保全と輸送スピード、および輸送費のバランスをとっています。このプログラムは現在全社的に進めている生産革新運動の目玉でもあり、これらにより、積載効率の向上と輸送費の削減を進めています。

都市部を得意とする自転車便

新宿パーツセンターでは、3km以内の比較的近距离の場所へ大至急でパーツを届ける際、交通渋滞にも負けない「自転車便」を運行して、早い・安



安全・安価を実現しています。この排気ガスを全く出さないミニ・モーダルシフトの実践により、2008年度も年間1トンのCO₂削減効果を出しました。

レールゴー・サービスによる高速輸送

万が一、仙台、盛岡、新潟のパーツセンターのスペアパーツ不足により、急な輸送が必要となったときには、東北、上越新幹線で荷物を輸送する「レールゴー・サービス」を極力採用し、東京から高速供給を行っています。

このサービスの受付時間は、受付・引き渡しとも7時から23時30分までと非常に便利になり、積極的に活用しています。

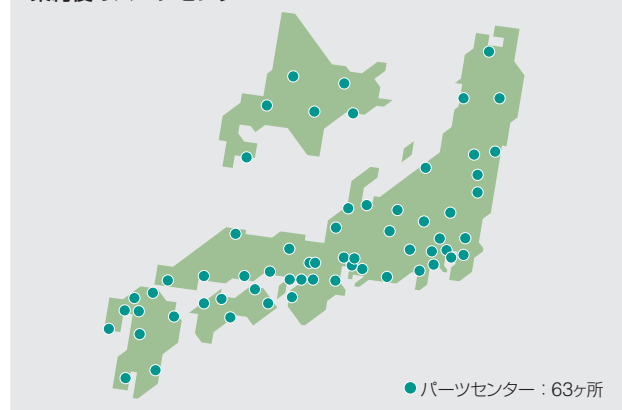
高速バスの利用

本来は乗客を運ぶために高速道路を定期的に運行する高速乗り合いバスを、小物パーツを急いで送る際に利用しています。重量物や貴重品、または情報セキュリティ上厳重な取り扱いが必要なものはこれに載せることはできませんが、小物パーツを比較的遠い場所へ急送するには最適な手段です。個別にバイクを仕立てて運ぶより、安全、確実、安価で環境対策にも寄与するコストパフォーマンスの良い運送方法だと考えています。

パーツセンターの集約

従来、スペアパーツは、川崎の補給センターから全国210ヶ所のパーツセンターに補充していました。しかし、生産革新活動を契機に、時代の変化とともに求められるパーツセンター機能の実現に向けて、2007年度下期から全国210ヶ所のパーツセンター集約を進め、2009年上期までに63ヶ所に集約する予定です。この結果、スペアパーツ輸送の際、川崎の補給センターと各パーツセンターとの「トラック混載便」のスリム化が図れます。また、保守拠点へのパーツ供給はパーツセンターと保守拠点間を結ぶ既存のルート便を有効活用します。これらにより、積載効率の向上と輸送費の削減を進めています。

集約後のパーツセンター





環境教育

2008年度活動テーマ

全従業員向け教育を含めた環境に関する4種類の教育を継続的に実施しています。NECグループ環境経営意識調査によって把握される環境知識力と環境行動力を兼ね備えた「エコ・エクセレンス」層割合の目標を従業員の75%以上と設定し、育成に取り組みました。

2008年度の活動実績

2005年度から毎年実施している全従業員を対象とした環境教育の効果により、「エコ・エクセレンス」層割合75%を達成。

環境教育実施による育成状況は、以下の通りです。

- 一般教育:14,645名育成(新規採用者向け基礎教育、3年経過ごとの基礎リフレッシュ教育、職場教育、全従業員向け「環境教育2008」等)
- 特定教育:5,939名育成(新任の特定業務従事者。また新たに「グリーン調達」教育を追加)
- 管理者教育:81名育成(新任の環境経営責任者および推進者)
- 監査員教育:64名育成(新任の内部環境監査員および環境パトロール実施者)

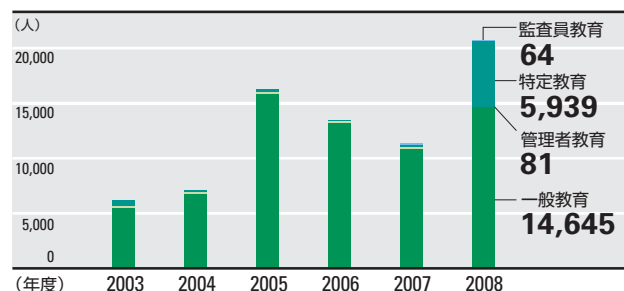
今後の課題

全従業員参加によるNECフィールドイング環境経営の実践に向けて、環境教育の継続的实施ならびに「エコ・エクセレンス」層割合100%を目指し、積極的な施策に取り組んでいきます。

環境教育実施状況

NECフィールドイングは、TRAINS-IV(43ページ参照)の個別学修支援システムを活用し、環境教育を実施しています。TRAINS-IVで管理されている受講履歴を環境情報システムが自動的に取り込み、環境教育の種類・部門別に受講状況を編集表示し、環境教育の受講を推進しています。

環境教育受講者数の推移



※リフレッシュ教育は3年ごとに実施するため対象者数は年度により異なる。
※毎年度、教育対象者の受講率は100%

環境教育の種類	対象者	目的
一般教育	全従業員	環境方針、環境マネジメントシステムの概要、従業員の役割、職場のルール理解と自覚
特定教育	廃棄物管理者	特定業務従事者の役割、責任、手順の理解と訓練
	危険物保管責任者	
	環境事前評価実施者	
	グリーン調達	
	フロン回収/高圧ガス取扱者	
管理者教育	一段部/地区環境経営責任者	組織の環境影響評価、計画策定、運用管理の理解と自覚
	一段部/地区環境経営推進者	
監査員教育	内部環境監査員 環境パトロール実施者	監査の役割、責任、手順の理解

環境関連資格保有者数(人)

資格グループ名称	2006年度	2007年度	2008年度	資格グループ名称	2006年度	2007年度	2008年度
エネルギー管理士	1	1	1	公害防止管理者ほか	1	2	2
環境マネジメントシステム審査員	8	13	14	高圧ガス製造保安責任者・販売主任者	3	3	3
内部環境監査員	165	157	159	特別管理産業廃棄物管理責任者	7	19	19
危険物取扱者	827	823	812	有機溶剤作業主任者	29	29	26
建築物環境衛生管理技術者	1	1	1	特定化学物質等作業主任者	9	9	9

環境コミュニケーション

2008年度活動テーマ

ステークホルダーの皆さまへ、より多くの情報を分かりやすくご提供することで、NECフィールドिंगの環境経営活動をご理解いただくために、環境コミュニケーション活動を充実させています。2008年度もブランド力向上への貢献として、教育、普及、実践に取り組みました。

2008年度の活動実績

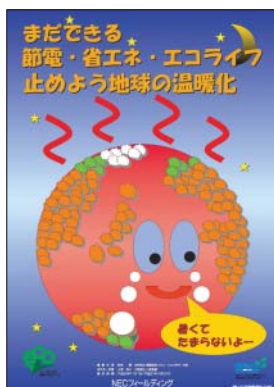
1. 第1回「気候変動への取り組みに関する企業のマネジメントシステム調査」
(インテグレックス社：気候変動MS調査)でサービス業界ランキング1位を獲得
2. 地球温暖化防止活動
 - ・「フィールドिंगの森」づくり
 - ・フィールドング環境月間実施（従業員や家族から環境標語や環境ポスター募集）

今後の課題

ステークホルダーの皆さまへ、より多くの情報を分かりやすくご提供できる環境コミュニケーション活動に取り組んでいきます。

フィールドング環境月間

NECフィールドングでは環境啓発活動向上のため、「地球温暖化防止への取り組み」をテーマとして環境標語を募集しました。活動は年々定着し、2008年度の応募総数は10,496件と、多数の応募となりました。また、最優秀に選考された標語を用いた環境ポスターを従業員・家族から募集し、125件の応募がありました。このなかから最優秀に選考された作品を、1年間各活動拠点に掲示し、環境への取り組みを推進しています。



2008年度版「環境ポスター」

フィールドングの森づくり

NECフィールドング環境中期計画では、地球温暖化防止と生物多様性保全のため、大切な熱帯雨林*を再生保護することを目的として、2006年よりインドネシア・カリマンタン島に「フィールドングの森」をつくり、植林活動を続けています。

2008年度までに、1,500本の植林を実施しました。また、地球環境の大切さを学び、行動につなげる人材を育成する環境教育活動のひとつとして、「第3回フィールドングの森・植林ツアー」を開催しました。従業員とその家族14名が参加し、現地視察と100本の記念植林を実施しました。



「フィールドングの森・植林ツアー」
(2009年2月)

*熱帯雨林…熱帯雨林は、地球上の酸素の約半分を供給すると言われ、また多くの生物種が生息しています。しかし、森林火災や開発などにより森は失われ、CO₂増加や生物種減少が深刻な状況です。



「フィールドングの森」について、詳しくは
お客さまへ > CSR活動 > 環境経営 > コミュニケーション >
フィールドングの森

News 2008

気候変動MS調査で サービス業界1位を獲得

NECフィールドングは、2008年7月、第1回「気候変動への取り組みに関する企業のマネジメントシステム調査」(インテグレックス社：気候変動MS調査)で、サービス業界ランキング1位を獲得しました。

この調査は、地球温暖化の進展による気候変動を止めるために、必要不可欠と考えられるCO₂排出量削減への取り組みに関する各企業のマネジメント体制を調査したものです。NECフィールドングは、今後も積極的に地球温暖化防止活動を推進します。

「フィールドングの森・植林ツアー」に参加 VOICE

「環境保護のためには現地住民の生活を安定させる＝貧困からの脱出が不可欠である」ことを現場で体感し、そのために自分は何ができるのかを考える貴重な機会でした。それが、フェアトレード商品の購入やマイクロファイナンスへのかかわりへとつながっています。



特定サービス事業部
高橋 悟